



草薙の剣



天皇さまは、重ねて日本武尊に東の方の十二の国（東海・関東・東北）の平定を命じられました。

そこで日本武尊は伊勢神宮にお参りし、この国をお守りになつていらっしゃる天照大御神を拜み、大神に仕えている倭比売命から、須佐之男命が八咫の大蛇を退治した時その尾から出て来た剣と、小さな袋を授けられました。日本武尊が山川の荒れすさぶ神々や従わない人々を平定しながら相模国（静岡県・神奈川県）についた時のことです。国の長である国造から「この野原の中に大沼があり、その沼の神のいたずらに大変困つていきます。」と訴えられました。尊はさつそく草深い野原に入つて行きましたが、沼はありません。さらに奥へ進んでいくと、まわりからものすごい勢いで火が迫ってきました。火をつけたのは国造と部下たちでした。だまされたと知つた日本武尊は、倭比売命からいただいた袋の口をあけてみると、火打石がありました。尊が、先ず授けられた剣で草を薙ぎはらい、火打石で火をつけると、火は反対の方向へ燃えて行き、国造たちを滅ぼしてしまいました。草を薙ぎ払つたその剣は「草薙の剣」と呼ばれ、今も天皇さまの大切なお宝として熱田神宮に伝えられています。

考えてみよう

○『お蔭さま』

○困難な時こそ解決の時